第2章　本市の概況

1）位置、地勢

本市は静岡県のほぼ中央、さらに東京と名古屋の中間に位置し、東は駿河湾を臨み、西は藤枝市、南は大井川を挟んで吉田町と島田市、北は静岡市と接している。市の面積は 70.31 ㎢、南北に細長い形状をしており、駿河湾に臨む 15.5 ㎞の海岸線を有している。また、市北部には、高草山や花沢山などの山地があり、南は海岸線に沿って平坦な志太平野が広がり、可住地面積の割合は県内の市の中で１位の 94.5%（県平均は 35.4%）である。

また、JR 東海道本線の「焼津」と「西焼津」の２つの駅と東名高速道路の「焼津 IC」と「大井川焼津藤枝スマート IC」の２つのインターチェンジを有し、幹線道路である国道 150 号が市域の南北を通過しているなど交通の利便性に優れ、さらに平成 21 年６月に開港した富士山静岡空港からは、市域のほとんどが 20km 圏内に位置するなど広域交通ネットワークが充実した地域である。

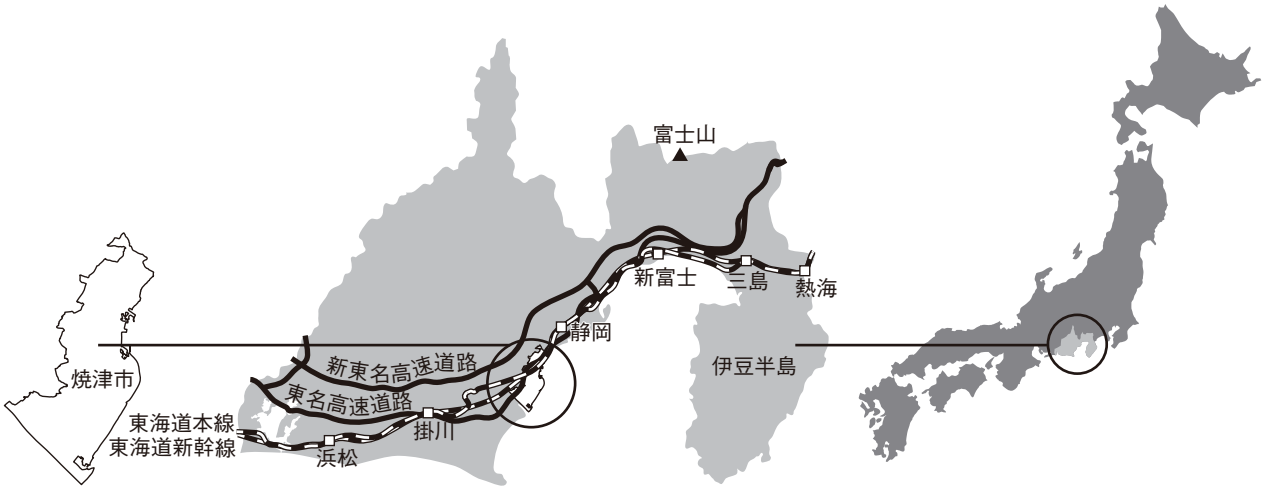

図 2-1.　位置図

2）歴史、沿革

古事記や日本書紀によると、「焼津」の地名は日本武尊（やまとたけるのみこと）が東夷征伐の途中、天叢雲剣（あまのむらくものつるぎ）で草を薙ぎ倒し、それに火をかけて賊を滅ぼした地であることに由来すると記されている。また、「大井川」の名称は日本書紀に見ることができ、水を集めて流れる大きな川という意味とともに、偉大なる川、偉大なる流れという意味もある。

焼津では江戸時代に港を利用した廻船業※が発達し、明治時代に入ると動力船が八丈島まで漁場を求めるようなった。昭和 26 年に焼津港内港が完成すると、漁業はますます盛んになり、国内最大級の遠洋漁業の基地として、全国に知られるようになった。一方、大井川は江戸時代初期に現在の川筋に定まり、今日の散居村※の原型が形成された。その後は田沼街道沿いに人家の集積が進み、海岸沿いには漁村が形成されて、農漁村の基礎が形づくられた。

焼津市は、明治 22 年に市町の元となる村が誕生し、昭和26年に市制が施行され、昭和 32 年までに隣接する町村を編入しながら形成されてきた。そして、平成 20 年 11 月1日に大井川町と合併し、現在の焼津市となった。

3)自然的条件

(1)地形

本市の地形は、主に山地と低地の 2 つからなり、北部の高草山山地とその南側に広範囲に広がる大井川低地により構成される。

・高草山山地は、市内最高地点である高草山（501m）や満観峰（470m）、花沢山（450m）、虚空蔵山（126m）などで構成されている。高草山山地は山腹が急斜面であることが特徴であり、一般に傾斜は 20°～ 40°にもなり、大崩海岸では比高 200m近くの海蝕崖が連続している。

・大井川低地は、標高 50m以下の起伏がない平坦地である。地形は、大井川が形成した「大井川扇状地」を中心とし、東側に「田尻低地」、北側には、瀬戸川、朝比奈川、葉梨川が形成した「瀬戸川流域低地」と「朝比奈川・葉梨川流域低地」が広がる。

・駿河湾岸砂礫州地は、駿河湾に面した平野の臨海部に形成された地形であり、大井川低地では、大井川河口左岸にあって大崩海岸にまで伸びる「大井川焼津海岸砂礫洲」がそれにあたり、海抜は 1.5m～ 5m程度である。

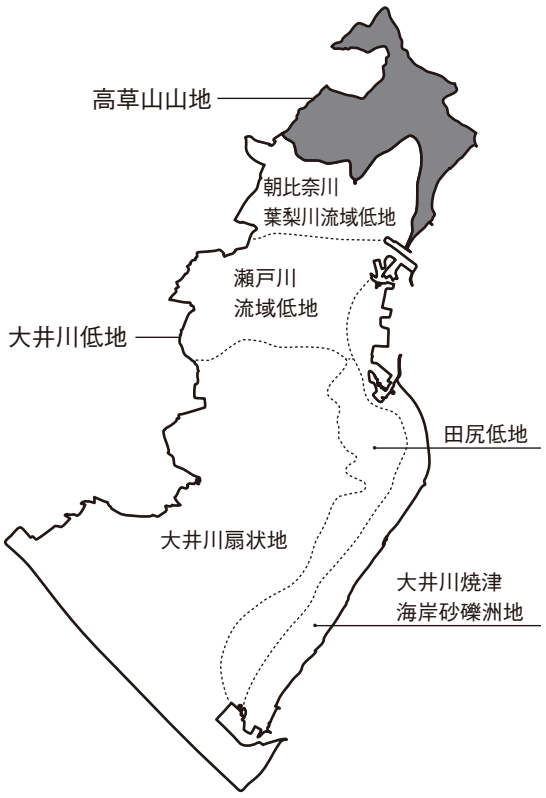

図 2-2.　地形分類
（資料：第４次焼津市国土利用計画参考資料）

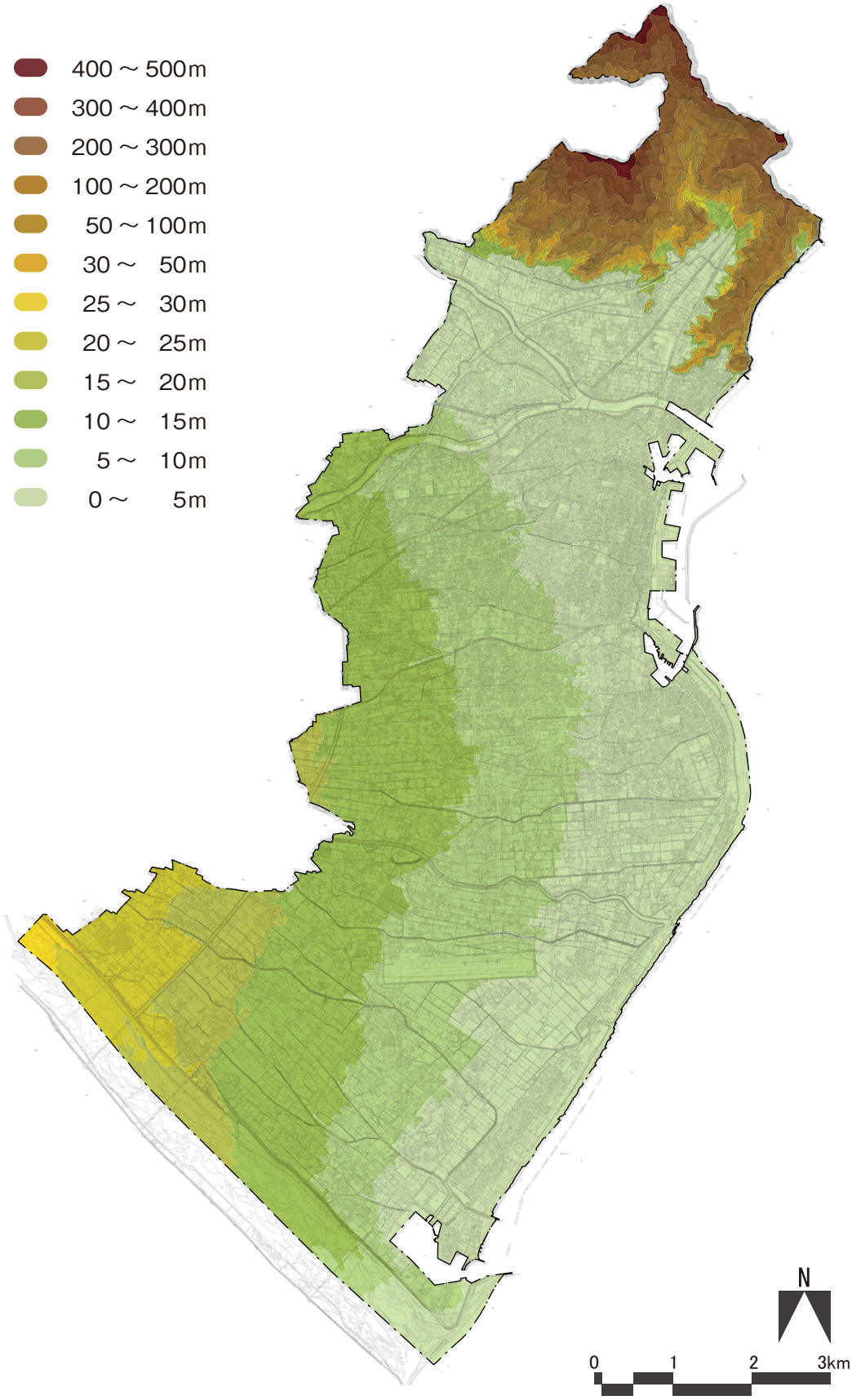
400 ～ 500m
300 ～ 400m
200 ～ 300m
100 ～ 200m
50 ～ 100m
30 ～ 50m
25 ～ 30m
20 ～ 25m
15 ～ 20m
10 ～ 15m
5 ～ 10m
0 ～ 5m
N
0
1
2
3km

図 2-3. 標高図

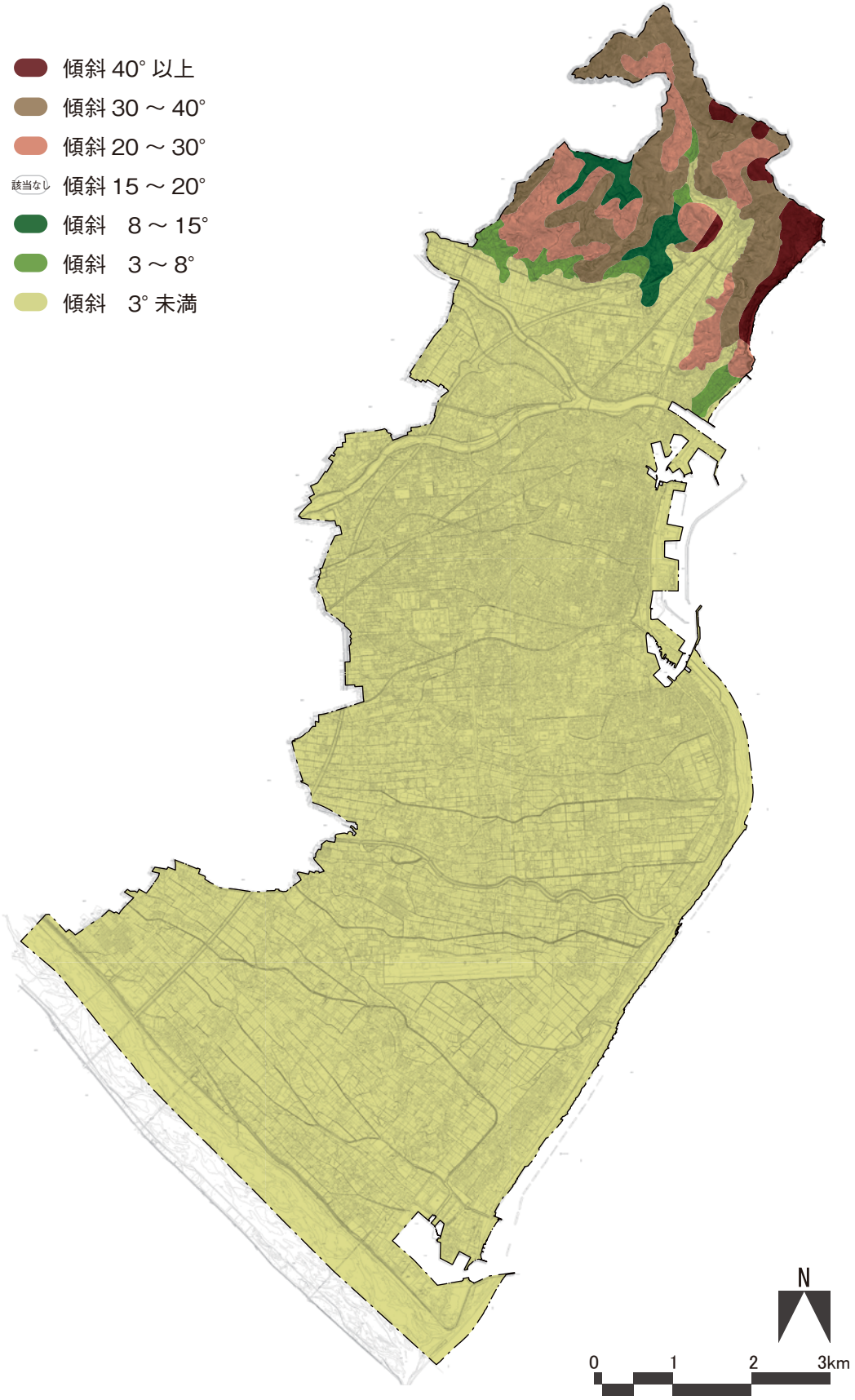

図 2-4.　傾斜区分図

（２）気象

気候は、年間の平均気温が概ね 17℃前後と温暖であり、冬場でもほとんど降雪がなく一年を通じて過ごしやすい地域である。夏季は南西風が強く、冬季は西風がやや強く、春秋には「ならい※」と呼ばれる北東の風が吹くことがある。

また、過去 3 年間の年間降水量は、約 1,800 ㎜～約 2,200 ㎜である。

表 2-1. 気温・降水量

	H24	H25	H26
平均気温（℃）	16.7	17.0	16.5
年間降水量（mm）	2,153.0	1,948.5	1,791.5

（資料：統計やいづ）

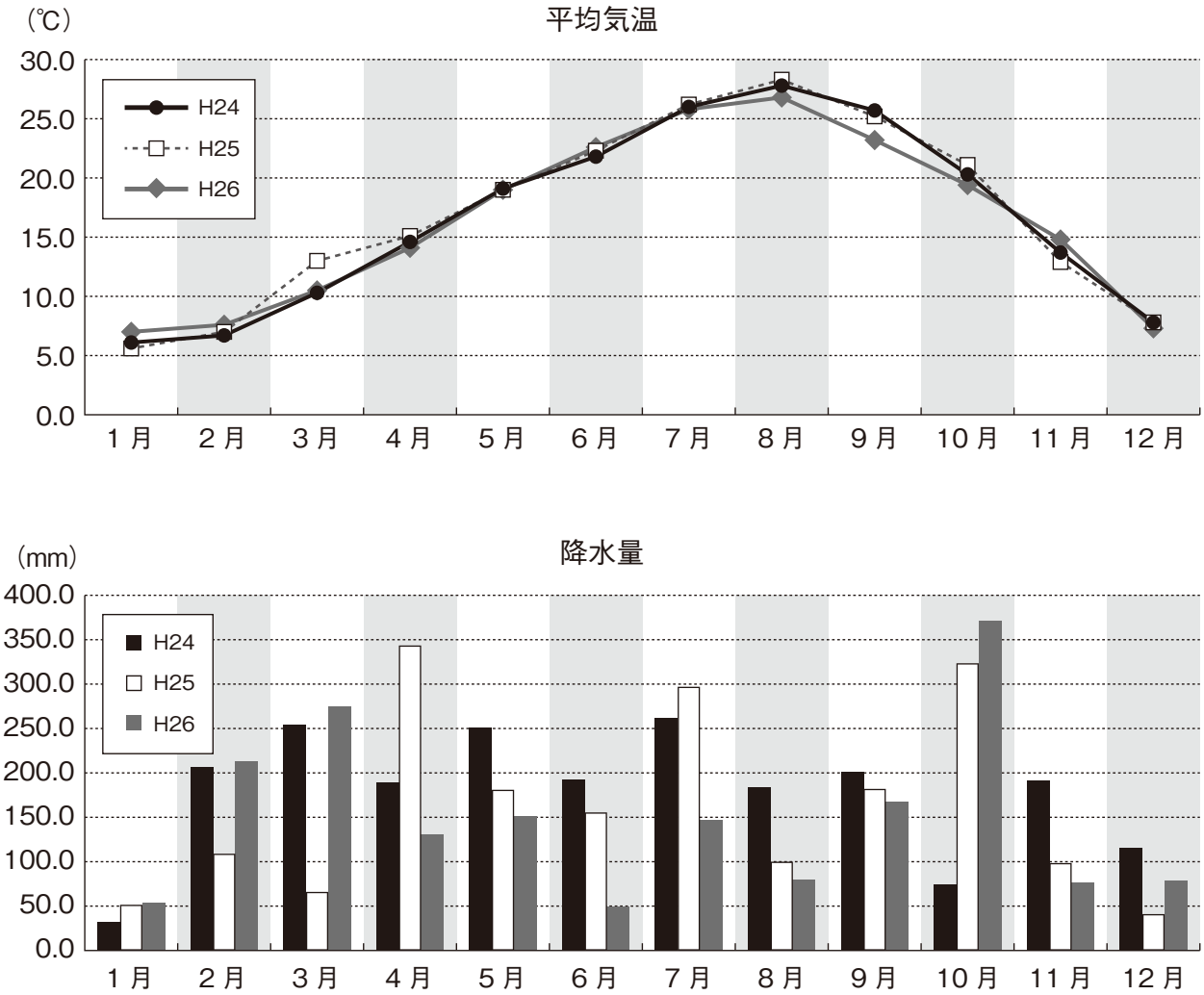

図 2-5. 気温・降水量

（資料：統計やいづ）

4)社会的条件

(1)総人口・総世帯数

国勢調査による平成 22 年の本市の人口は 143,249 人であり、平成 2 年から増加が続いていたが、平成 22 年をピークに減少に転じ、平成 27 年の人口は 139,513 人である。

総世帯数は増加が続いており、平成 22 年では 49,299 世帯、平成 27 年では 50,156 世帯となるが、平成 22 年を境に増加率は低下している。

また、世帯あたり人口は減少傾向にあり、平成 27 年では約 2.78 人／世帯（全国平均：2.38 人／世帯）となっていることから、核家族化や単身世帯の増加が進行している。

表 2-2.　総人口及び総世帯数の推移

	H2	H7		H12		H17	
	実数	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総人口(人)	112,186	115,931	3.3%	118,248	2.0%	120,109	1.6%
総世帯数(世帯)	31,606	34,996	10.7%	37,915	8.3%	40,468	6.7%
世帯あたり(人/世帯)	3.55	3.31	-6.8%	3.12	-5.7%	2.97	-4.8%

	H22		H27※	
	実数	増減率	実数	増減率
総人口(人)	143,249	19.3%	139,513	-2.6%
総世帯数(世帯)	49,299	21.8%	50,156	1.7%
世帯あたり(人/世帯)	2.91	-2.0%	2.78	-4.3%

※平成 27 年国勢調査
焼津市の人口（速報値）

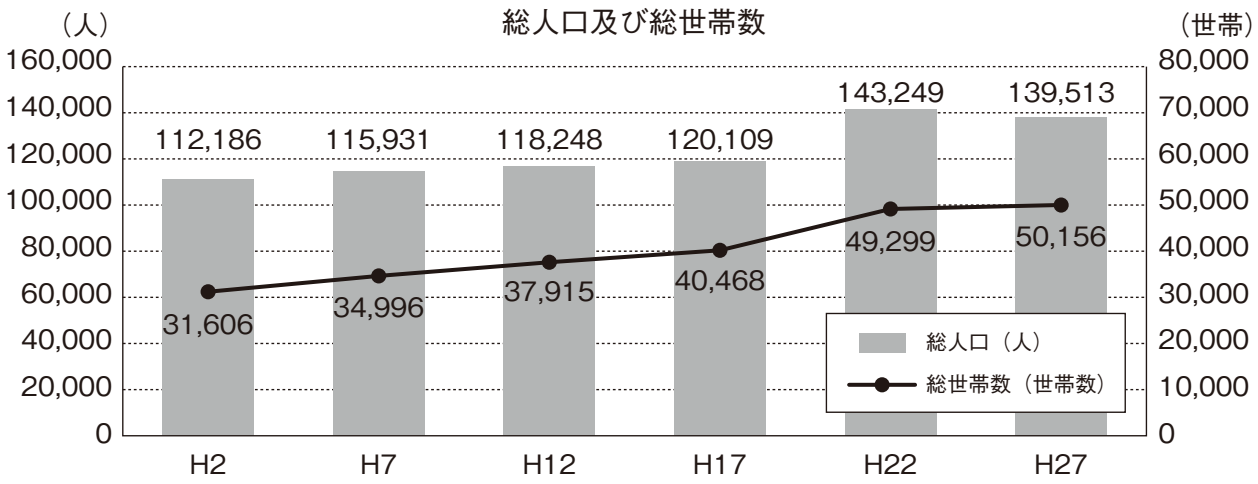

図 2-6.　総人口及び総世帯数の推移
（出典：国勢調査）

（２）土地利用

本市は、高草山一帯の山林や畑（みかん畑・茶園）を除く平坦地だけをみれば、宅地を中心に都市的土地利用の占める割合が高い。

市街化区域では、わずかに農地も残されているものの、概ね宅地や公共施設用地などが多く、市街化調整区域では、水田を中心とした農地が広がるがスプロール※的に宅地が散在している。商業地は、焼津駅周辺や国道 150 号、（都）焼津広幡線、（都）焼津駅道原線などの幹線道路沿道に広がり、工業用地は、沿岸部や大井川左岸、大井川港周辺、焼津 IC 周辺などに集中しているとともに、市街化調整区域内の水田地帯に点在している。

山林は主に高草山と海岸線の松林の２カ所であり、本市の貴重な緑であることがうかがえる。

（３）都市計画区域・用途地域

市域全体が都市計画区域に指定されており、市街化区域は、主に焼津、小川、港、大村、豊田地域に指定され、大井川港や大井川地域の一部の地域に用途地域が指定されている。

中心拠点となる焼津駅周辺は、商業地域・近隣商業地域に指定されており、それを取り囲むように住居系が広がっている。その外側には、工業系の用途が指定されており、準工業地域は、焼津漁港をはじめ、焼津 IC 周辺や、JR 東海道本線と JR 東海道新幹線に挟まれたエリア等に指定されており、工業地域や工業専用地域は、豊田・大富地域、大井川左岸や大井川港周辺部に指定されている。

（４）農業振興地域・農用地区域

農業振興地域は、用途地域が指定されていない市域の北部と中南部に指定されており、当該区域内に農用地が指定されている。

高草山周辺部の斜面部には、茶畑を含む樹林地が農用地として指定されている。また、それ以外の農業振興地域内は、田や畑が農用地として広く指定されている。

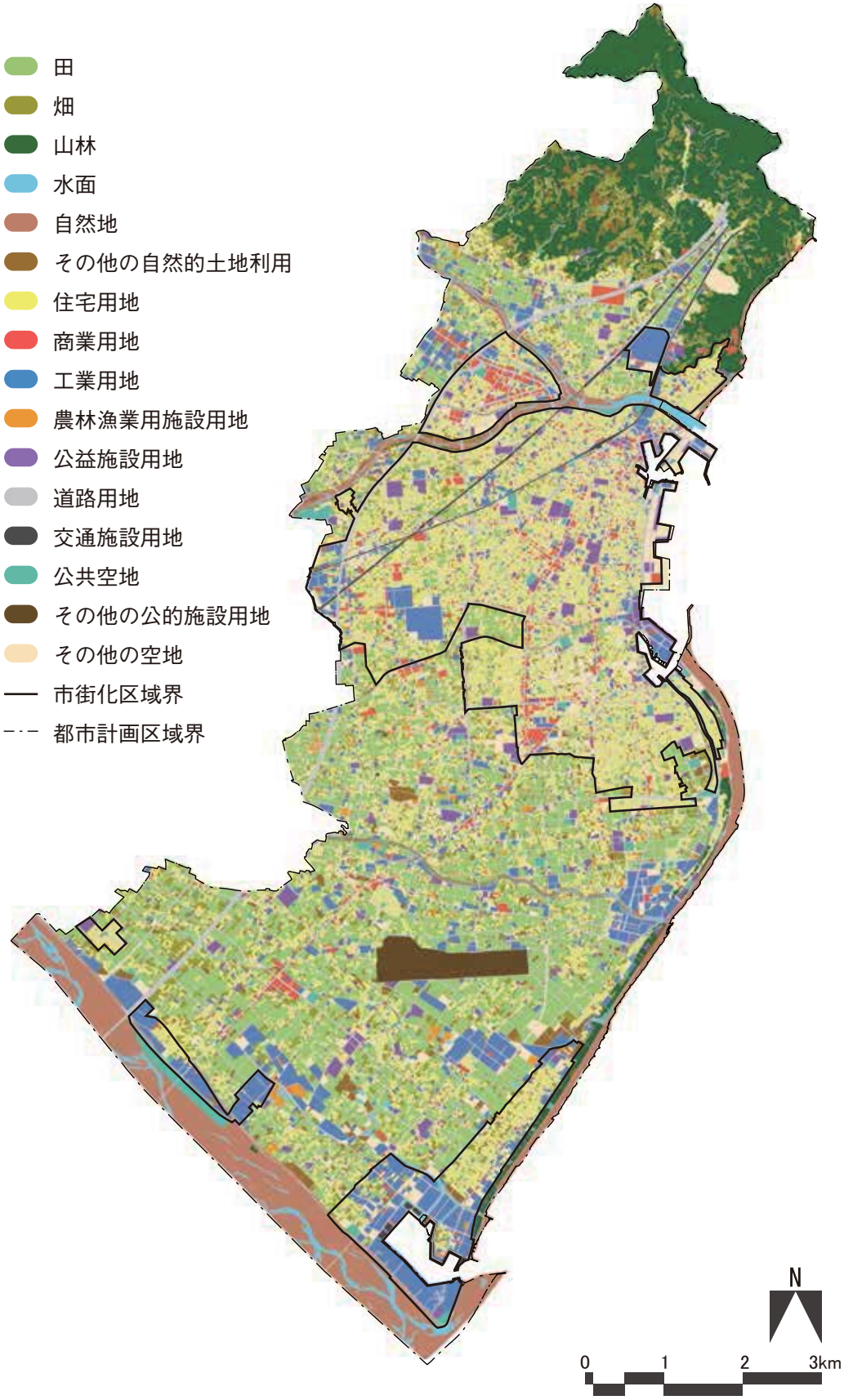

図 2-7.　土地利用現況図

（資料：平成 23 年度　志太広域都市計画区域　都市計画基礎調査）

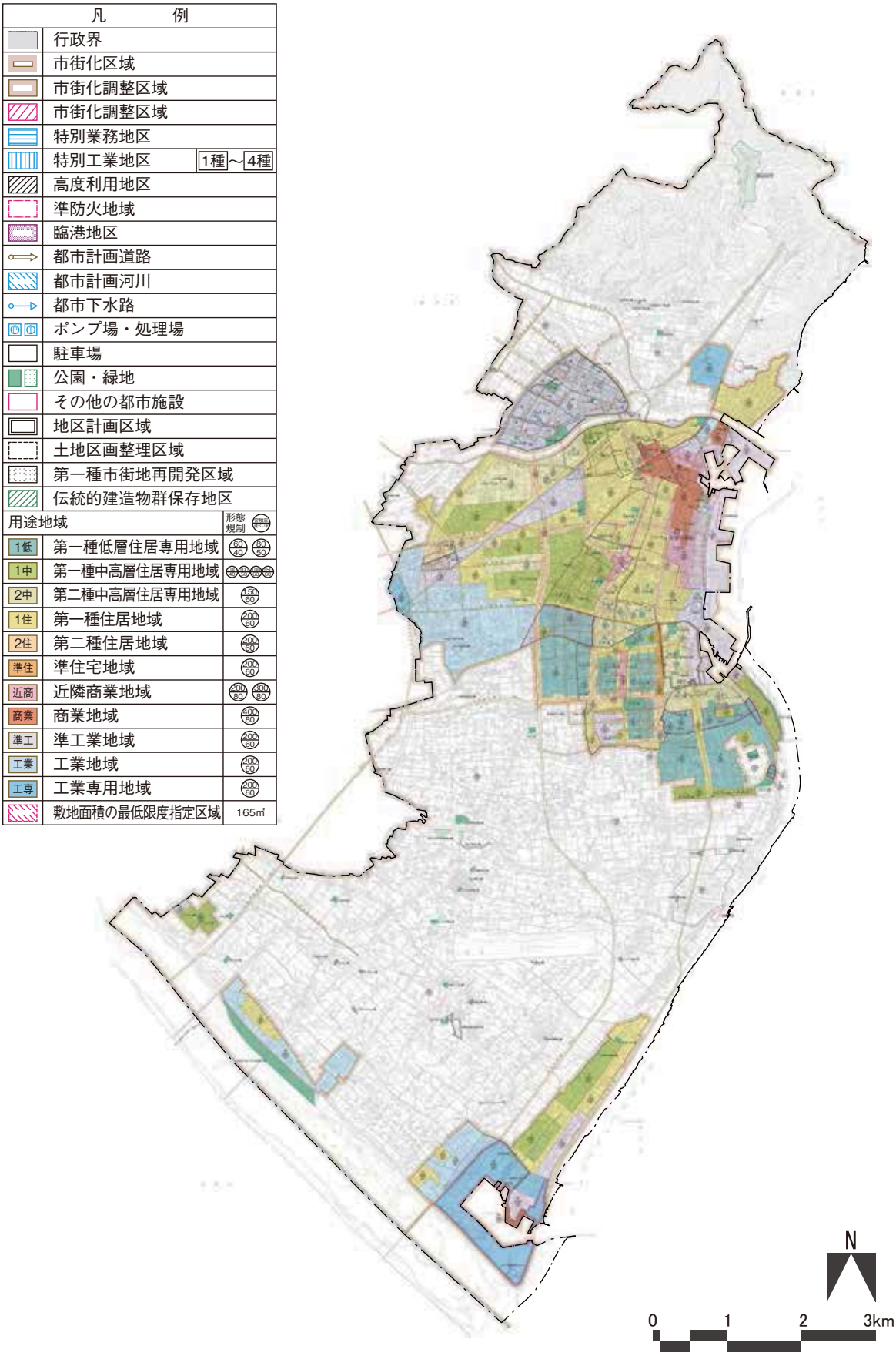

図 2-8.　都市計画区域・用途地域

（資料：志太広域都市計画図）

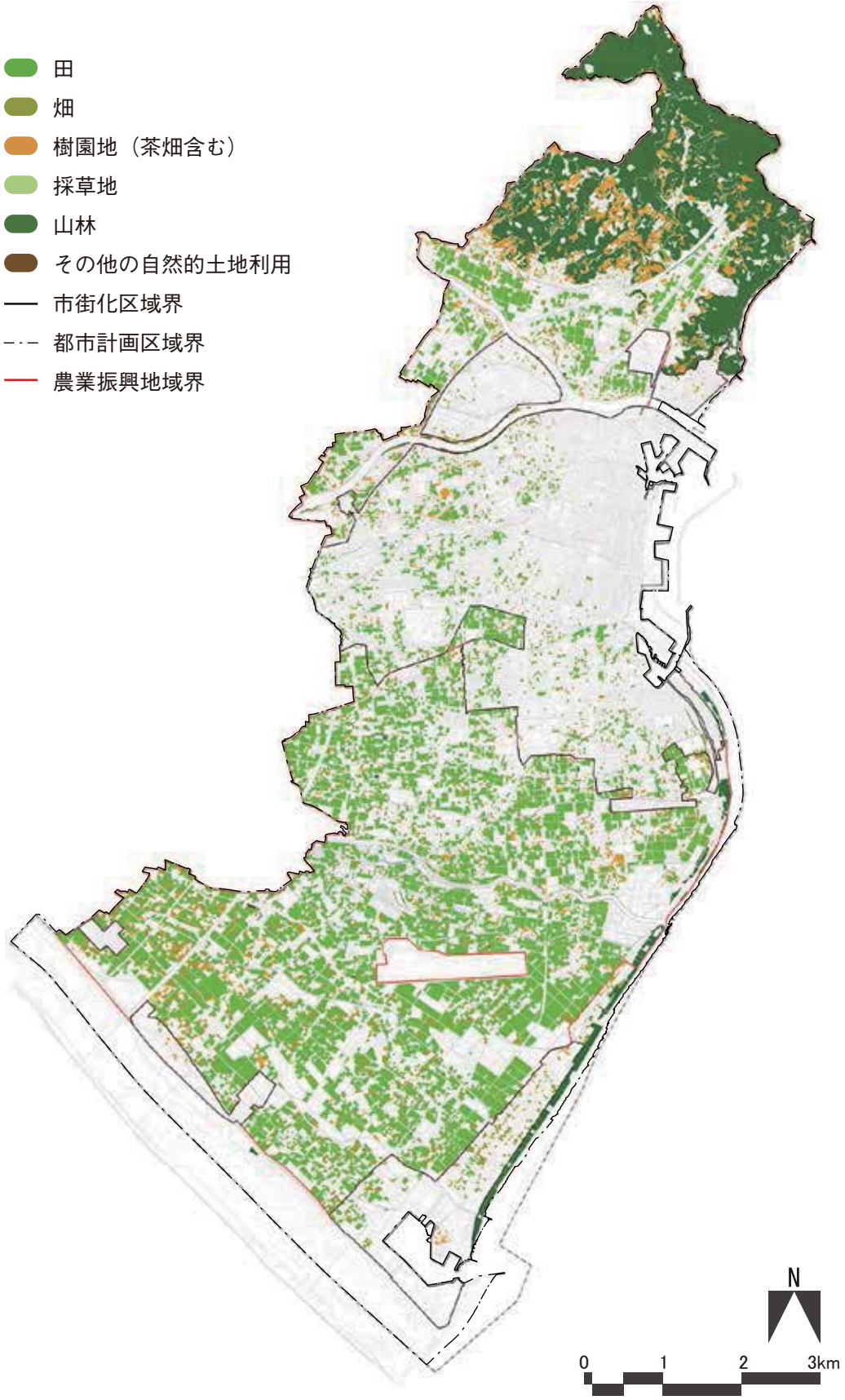

図 2-9.　農業振興地域・農用地区域

（資料：平成 23 年度　志太広域都市計画区域　都市計画基礎調査）